

エゾハルゼミ

澄川活動日はいろいろ楽しみがあるので、いつも早めに行きます。まずは鳥の声。雑音なしの声で聞き分けを楽しみます。焚き火の準備をしていると市山氏が 2 番目に到着しました。焚き火の近くにある水貯め用の青いポリタンクに羽化したばかりのエゾハルゼミが止まっているのを目ざとく見つけてくれました。すぐ傍のヒメジオンの若芽の葉に抜け殻がありました。手にとって♀であることを確認しました。2012 年 5 月 29 日午前 9 時ころと記録しておきます。



天気予報では時々雨のようでしたが、気温が上がってきてカンカン照りの様相となってくるとセミたちが鳴きはじめました。つい先だってはエゾアカガエルやアマガエルの声がしきりでしたが、もはやセミの声の季節になりました。大合唱も間近です。

エゾハルゼミは小さいセミです。樹の幹ではなく高い枝に止まっていることが多いので、声はすれども姿を確認しにくいセミです。♂と♀で体型がかなり違います。腹部の大きさが♂の方が倍くらい♀より大きく見えます。大きな声を出すしかけが腹部にあるからでしょうかね。体長は♂38～44 ミリ、♀37～39 ミリ。

分布は日本全土から千島、サハリンさらに中国と結構広いのです。暑いのは苦手のように九州では涼しい場所すなわち標高 800～1000 ㍎の高山域にしかいないので、九州育ちの高野少年の活動場所である低地ではお目にかかれなかったわけです。九州低地のセミたちは体も声も大きいクマゼミやアブラゼミなど採りごたえがありました。札幌でセミ採りの子供たちを見かけることは殆どないのはエゾハルゼミにしてもエゾゼミにしても森林性で都会の公園まで出かけてはくれないからでしょう。

この日参加者が多く、皆でアイケンの森に支柱竹を採りにゆきましたが、焚き火の番に一人残りました。基地周りに転がしてある雑枝を燃やしたり、雑幹を燃料用に薪割りなどをしながらセミの声、鳥の声を独り占めに出来た楽しい時間でした。



♂



♀